

索 引



『花の縁』を書き始めた頃めぐり会った猫である。比企郡滑川町のゴルフ場の裏山で5匹の兄弟で捨てられていた。雨に濡れたせいか1匹は間もなく息を引き取ってしまった。3匹はスーパーの駐車場で、夜までかかって里親を見つけることに成功したが、こいつだけ残ってしまった。夏至の日のことだった。

## 植物名索引



最初は猫を飼う気持ちはなかった。また明日スーパーマーケットにでも連れて行って、里親を見つけるつもりだった。ところがその晩一緒に過ごすうち考えが変わってしまった。一緒にいるだけで心が和んだ。猫は親とめぐり会った気持ちでいるようだった。当時は母が存命中だったので、母に内緒で2階の風呂場で飼う事にした。人懐っこい猫で、すぐにゴロゴロと喉を鳴らしたのと、5匹兄弟だったのでゴロ(五郎)と名づけた。クルマにもすぐになれて、あちこちの撮影ドライブと一緒に出かけた。この頃は県内の撮影が主だったが、仙台まで一緒に行ったこともあった。クルマにも自分から乗り降りしたから、あまり手はかからなかった。しかし風呂場での生活は快適ではなかったらしく、小生が会社の帰りに近所まで帰ってくると、足音を聞き分けて必ず鳴きだした。母「バレないかと心配だったが、母は2階へ上がって来ることはなかった。しかしある日ゴロを連れて玄関を開けると、そこには何と母が立っており、ついにはばれてしまった。しかしゴロの仕草が可愛いかったせいか、何とか市民権を獲得することが出来た。それから数ヵ月後、小生が海外へ行った折、家の前でクルマにはねられて世を去った。1996年9月23日、秋分の日のことだった。悲しかった。涙が止まらなかった。こいつと暮らしたのは、夏至の日から数えて91日間。地球の運行のちょうど4分の1だった。ゴロと暮らした91日間の記録は、電子書籍『仔猫にもらった91日間の幸せ』の中で詳述した。

植物名索引 (ア) へ行く